

# JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版  
JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

北米富裕層市場へ  
栃木ブランド発信

(JA全農インターナショナル(株)・栃木県本部)

6-7面

「91農業フォーラムin東北」を開催

(耕種総合対策部)

配送先変更(住所・宛名)、  
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

全農 ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

News!

## 北米富裕層市場へ栃木ブランド発信

とちぎ和牛、とちあいか、酒 品目横断でPR

JA 全農インターナショナル(株)・栃木県本部



とちぎ和牛や「とちあいか」などをPRした「とちぎフェア」

本フェアは、米国の富裕層市場へ栃木県産品の魅力を発信することを目的に開催しました。会場では、全国食肉学校の講師が「とちぎ和牛カタルース」のカットイングショーを披露しました。とちぎ和牛の特徴の解説に加え、熟練の技術で鮮やかに肉が切り分けられる様子は来場者の注目を集めました。



会場で提供されたいちご



とちぎ和牛のカットイングを披露

また、デザートに「第4回 全国いちご選手権」で最高賞を受賞した品種である「とちあいか」を提供し、2種類の地酒とともに、栃木ブランドの魅力を発信しました。今後も関係団体との連携を密にし、ストーリー性のある情報発信を通じて、県産品の販路拡大とブランド確立を推進していきます。

JA全農インターナショナル(株)は2月18日、米国・ラスベガスの高級カジノ内のステーキハウスで「とちぎフェア」を開催し、とちぎ和牛やいちご「とちあいか」、地酒の提供など関係団体と連携して栃木県産品の魅力を発信しました。

News!

## AKB48が「ニッポンエール」の魅力紹介

収穫体験や工場見学など産地から情報発信

営業開発部



齊藤良樹代表理事専務(前列左)と戸井和久チーフオフィサー(同右)とAKB48

今回の就任で各種SNSでの発信に加えて、販促物(チラシ・ポスター・グッズなど)やPRイベントにも登場してもらい、「ニッポンエールブランド」および各産地の魅力ある農畜産物の情報発信を担っていただきます。

全農は「ニッポンエール」の認知拡大を目的に、2025年からAKB48を活用したTikTokなど各種SNSで動画を配信しています。26年3月からはさらなる露出拡大を図るため、AKB48をブランドアンバサダーに起用、3月9日に就任記者会見を行いました。



AKB48とJAタウンのイメージキャラクター「じゅー太」

また、登録者数115万人を超える全農グループのYouTubeチャンネル「ゆるふわちゃんねる」では、26年4月から新番組の配信を開始します。番組では、AKB48のメンバーが産地を訪れ、生産者のお手伝いとして収穫体験し、工場見学や観光を楽しみながら、ニッポンエール商品と産地ならではの魅力を発信していきます。

AKB48のブランドアンバサダー活動を通じて、メディア露出やSNSとの連携を強め、より幅広い層へニッポンエールの魅力を届けていきます。



# 全国麦作共励会中央表彰式を開催

## 全農経営管理委員会会長賞に茨城県、福岡県の生産者

麦類農産部



金森常務から表彰状を授与(集団の部 つねもち)

農家の部 受賞者の杉山さんは、茨城県筑西市で小麦、水稲、大豆、そばを組み合わせた大規模な普通作経営を行っています。実需者から求められるタンパク含有率13〜14%の小麦生産に加え、土地集積・集約化や大型機械による省力化、鶏ふん堆肥の活用によるコスト低減など様々な工夫を重ねています。

農事組合法人つねもちは、福岡県筑後市で米、麦、大豆を中心とした土地利用型作物経営を展開し、土地利用効率200%を誇ります。高収量・高品質な麦生産に加え、機械化体系による作業の効率化、綿密な土地利用・栽培計画、スマート農業技術の導入など先進的な取り組みを進めています。

全農が後援する2025年度全国麦作共励会の中央表彰式が3月2日、東京都千代田区で開催されました。麦の収量・品質の高位安定化と作業効率化に取り組み農家および団体が全農経営管理委員会会長賞に輝き、金森正幸常務理事から表彰状が授与されました。



表彰を受けた杉山さん(左)

全農は、国産麦の生産振興に向けた栽培技術の向上に励む生産者を応援するとともに、産地と実需者が連携し、安心して生産・使用できる環境づくりに今後も取り組んでいきます。



# 「デリカテッセン・トレードショー」に初出展

## 惣菜展示で、小売業態の惣菜部門や中食業態へアピール

JA 全農ミートフーズ(株)



ブースの様子

JA全農ミートフーズは、「国産原料×こだわり製法が生む、ワンランク上の惣菜メニュー。」をテーマに、取引先の商品の品質・単価アップにつながる、国産原料とおいしさにこだわった加工品を提案しました。

JA全農ミートフーズ(株)は2月18〜20日、千葉県の幕張メッセで開催された「スーパーマーケット・トレードショー2026」と同時開催された「デリカテッセン・トレードショー2026」に初出展しました。



「国産黒毛和牛ローストビーフ」などを使ったサラダやお弁当の展示

展示は量販店の惣菜売り場を模し、自社商品を使った惣菜商品を陳列。取引先が商品化をイメージできる提案を行いました。

試食は「国産豚ロース低温調理仕立て(加熱済)」を使ったポテトサラダや、「国産鶏ムネ塩唐揚げ」を提供。どちらも柔らかくおいしいと、来場者から好評でした。

今後、魅力的なメニューを開発し発信などで国産原料の価値が伝わる提案に注力していきます。



# 県産牛乳のPR強化へ統一マーク

## 小学校で特別授業、消費拡大や地産地消を後押し

富山県本部は、富山県産牛乳の統一マークが新たに完成したことから、小学校での特別授業や量販店の売り場でのPR強化を通じ、食育の推進、消費拡大と地産地消に取り組んでいます。

### 春休み前に小学校で特別授業を開催

2026年2月17日、富山市立池多小学校の全校児童を対象に特別授業を行いました。

授業では県本部の確井副本部長が、高齢化、後継者不足、生産コスト高騰などを理由に県内酪農家戸数が減少していることや学校給食がない日の牛乳の行き先などの酪農を取り巻く現



池多小学校での特別授業の様子



特別授業のスライドの画面



真剣な表情で話を聞く児童たち

状について、低学年でも理解できるようにアニメのスライドを用いて説明しました。あわせて、2025年12月からは

学校給食用200ミリパックに富山県産牛乳の統一マークが表示されたことを伝えるとともに、その統一マークを目印に、春休みなど学校給食がない日にも毎日1杯の牛乳を飲んでいただくように呼びかけました。

続いて、とやまアルペン乳業(株)の樋口社長は、牛乳が生産されてから消費者

の手元に届くまでの流れについて動画を用いて説明し、安全・安心な牛乳づくりに取り組んでいることを紹介しました。途中、動画が動かなくなるハプニングもありましたが、児童たちからは笑いがこぼれ、終始和やかな雰囲気の中で授業が進められました。

最後に代表児童から、「今日、さまざまなことを知ることができました。これからも、大好きな牛乳をもっと飲んでいきたいです」とあいさつがありました。

### 統一マーク作成の経緯と量販店での売り場づくり

統一マークは消費者からの「売り場で県産牛乳が分かりにくい」との声が多く聞かれたことから、酪農家で作る富山県乳牛協会、富山県内乳業7メーカーで構成する富山県乳業協会および県本部で連携して、昨年夏に完成させました。

統一マークは、赤い円の中に牛乳を飲む人のシルエットを配したデザインとなっています。



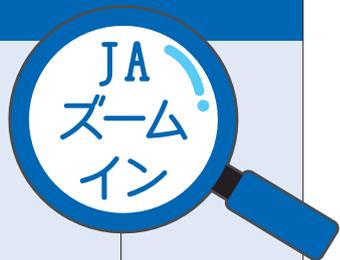
売り場における販促資材の展開

統一マークの完成にあわせて、量販店のバイヤーと協議し、ポスターやスポットPOP、レールPOPなどの必要な販促資材を作成しました。そして、店舗スタッフと県本部が協力して売り場づくりを行いました。特に目を引く売り場については、県本部のSNSで紹介し、消費者への周知を図りました。

富山県本部では、今後も関係団体と連携し、県産牛乳の消費拡大と地産地消を推進するとともに、統一マークが県民に広く親しまれるマークとして定着することを目指します。



「富山県産牛乳」統一マーク



# 対話から生まれた「支援室」

# 生産者の困り事を解決・支援

JAみなみ筑後は福岡県の最南端に位置し、みやま市と大牟田市の2市にまたがる地域密着型の農業協



新規就農を目指し、トレーニングファームで学ぶ研修生

同組合です。温暖な気候と豊富な日照を生かし、米・麦・大豆をはじめナス、セロリ、ミカン、イチゴなど多彩な農産物の栽培が盛んです。

## 次世代農業を支える新拠点

同JAでは年に1回、農事組合法人や認定農業者など約100人を対象に対話活動を行っており、その中で高齢化に伴う将来への不安の声が多く寄せられています。こうした課題を受け、次世代農業への取り組みを加速し、経営改善や地域農業の維持を図るため、2023年10月に「あぐり支援室」を設立しました。



イチゴの植え付けを学ぶ研修生

あぐり支援室では人的支援や機械的支援をはじめ、遊休資産の活用、有害鳥獣対策、耕作放棄地対策など、幅広い支援に取り組んでいます。特に人的支援では、若年層の農業離れによる労働力不足を背景にJAが特定技能外国人を雇用し、人手

## JAみなみ筑後(福岡県)



不足に悩む農家の作業支援を行っています。

## FMBIZ導入で出荷効率化

花き部会では、物流業界の人手不足が深刻化する「2024年問題」への対応として、出荷・流通の効率化を目的に「FMBIZ」を導入しました。導入以前は、生産者が手書きで伝票を作成して出荷し、JAや市場で再度入力・確認する必要があり、多くの手間と時間を要していました。

FMBIZの導入により、スマートフォン台で出荷情報の登録から送り状の作成、データ管理までが可能となり、QRコードの活用でJA、運送会社、市場



FMBIZの導入で出荷情報の登録から送り状の作成などを効率化

が出荷状況をリアルタイムで共有できるようになりました。導入にあたっては作業手順の見直しが必要でしたが、省力化につながり、「以前のやり方には戻れない」と生産者からも好評の声が寄せられています。

概要	2025年3月31日現在
正組合員数	4403人
准組合員数	6674人
職員数	211人
販売品取扱高	92億6千万円
購買品取扱高	37億1千万円
貯金残高	914億5千万円
長期共済保有高	2193億9千万円
主な農産物	米、麦、ナス、セロリ、イチゴ、かんきつ



# 「91農業フォーラムin東北」 を 開催 地域を支える新しい農業との 関わり方を提案

全農は2月25日、仙台市内で「91農業フォーラムin東北」を開催しました。宮城県内を中心に予定募集人数をはるかに上回る参加申し込みがあり、個人(専業主婦、パート・アルバイト)、企業、団体、JAグループ関係者ら約500人が参加しました。

## 【耕種総合対策部】



近年、各地域で農業の労働力不足が喫緊の課題となっていくことから、農業への労働力支援の取り組みが安定的な農業生産につながることを広く一般消費者に理解してもらい、地域農業のパートナーとして参画いただくきっかけづくりとするため、「91農業」をキーワードにフォーラムを開催しました。

「91農業」とは、生活の中の少しの時間、週末の休暇、都合の良い日に、都合の良い場所で、いま働く場を求めている人と、

働き手をつなげる新たなスタイルです。

フォーラムでは情勢報告として、東北宮農資材事業所の岡本雅至課長が、労働力不足の現状や東北各県における労働力支援の取り組みを紹介しました。

## まず生産者を訪ねることから

——中田英寿氏

特別講演では、元プロサッカー選手で現役引退後は全国47都道府県を巡り、日本の伝統文化・産業を発信する「ほんもの」プロジェクトを推進する中田英寿氏が登壇しました。中田氏は2025年から農水省と連携し、「農業×スポーツ」プロジェクトにも取り組んでおり、これまでの自身の経験を



ディスカッションをする登壇者

もとに農業の魅力と可能性について農業ジャーナリストの小谷あゆみ氏を聞き手に講演しました。

中田氏は、「農業のことを消費者がもっと考えないといけない。現場と消費者をつなげることで自分ができる役割」「農業もスポーツ同様、消費者が『食べる』にとどまらず、『応援すること』で自分たちとの関わり方を広げる必要がある」と述べました。最後に、労働力支援の

一歩を踏み出すための方法として「まずは自分の地元を知ることが一番。近くの生産者を訪ねることから始めてみてほしい」と呼びかけました。

## 農作業支援を機に6次化商品

——日本航空

3つの事例報告では、日本航空(株)がサクラランボの労働力支援をきっかけに農を起点とした事業展開を行い、6次化産品として「山形県産さくらんぼ」

「ほクラフトラガー」の開発・販売まで行った事例を紹介しました。



クロージングメッセージを行う  
軽部賢太氏（生産者）



事例紹介をする日本航空(株)若林輝樹氏



開会あいさつをする鈴木耕総対部長



事例紹介をする(株)そうしんアグリ  
岩田久宏常務取締役



事例紹介をする JA ふくしま未来  
佐藤剛課長

JAふくしま未来は、職業紹介事業の一環として地元郵便局との連携による柿やリンゴの収穫作業を支援する取り組み、(株)そうしんアグリは兵庫県での農作業受委託事業についてそれぞれ報告しました。

続いて、事例報告者3人と山形県本部職員は、小谷あゆみ氏をコーディネーターに迎え、「地域農業を支える連携の在り方」についてディスカッションを行いました。

ディスカッションでは①地域を越えた企業の労働力支援②地元地域を支える企業の労働力支援③一般の方と農家をつなぐ立場としての労働力支援と三者三様の立場——それぞれの視点から活発な意見が出され、現場の声をフォーラム参加者に伝えることができました。

**労働力支援が経営規模拡大に  
——生産者・軽部賢太氏**

最後に、山形県内でサクラン



特別講演を行う中田英寿氏(右)と聞き手の小谷あゆみ氏

ボを生産する軽部賢太氏が、生産現場の労働力不足の現状や自身が労働力支援事業を活用して経営規模の拡大につながった経験から、支援いただいた方への感謝の意を伝えました。そして、参加者に対して「今回のイベントをきっかけに、少しでも多くの方に農作業支援の現場に入ってきていただきたい」と熱いメッセージで呼びかけました。

今回、参加者の9割近くが

「農作業の経験がある」、もしくは「取り組んでみたい」という方で、事後アンケートでは「フォーラムの内容に満足した」「食や農業にさらに興味を持った」「農作業支援に取り組んでみたい」との意見も多くいただきました。

今回のフォーラム開催もふまえて、これから一人でも多くの方に農業労働力支援に参画していただけるよう、支援体制の構築に取り組んでいきます。

時間	内容	登壇者
13:00-13:10	開会挨拶	全農耕種総合対策部 部長 鈴木富隆
13:10-13:30	情勢報告	全農耕種総合対策部 東北営農資材事業所 TAC・生産対策課 課長 岡本雅至
13:30-14:20	特別講演	講演者：中田英寿氏（元プロサッカー選手） 聞き手：小谷あゆみ氏（農業ジャーナリスト）
14:35-15:05	事例報告（各10分）	① 日本航空(株) 東北支社 事業部 第1事業グループ 若林輝樹氏 ② JAふくしま未来 営農経済部 営農経済企画課 課長 佐藤剛氏 ③ (株)そうしんアグリ 常務取締役 岩田久宏氏
15:05-16:05	パネルディスカッション	パネラー：同上3名、全農山形県本部 佐藤大輔 コーディネーター：小谷あゆみ氏
16:05-16:15	クロージングメッセージ	(株)軽部さくらんぼ園 軽部賢太氏
16:15-16:25	抽選会	
16:25-16:30	閉会挨拶	全農耕種総合対策部 東北営農資材事業所 事業所長 阿部浩人



## （株）ファミリーマートとの酪農応援へ新商品 牛乳・乳製品を使用した2商品を発売

全農と資本業務提携先である（株）ファミリーマートは商品共同開発の一環で、牛乳の消費が落ち込む3月期の需要喚起のため、「春のおいしいいちごミルク（協同乳業）」「国産牛乳のミルクアイスバー（赤城乳業）」を3月17日に発売しました。 【営業開発部】

商品は酪農応援企画に合わせて、ミルク感たっぷりに仕上げています。全国のファミリーマート店舗では3月17～30日に、店内設置の大型モニターで酪農応援動画を配信し、酪農家の応援と牛乳・乳製品の消費拡大を図ります。

全農とファミリーマートは、両者の強みや特色を生かした協業を通じて、魅力的な国産農畜産物の訴求と販売拡大に取り組んでいます。



春のおいしいいちごミルク



店内のイメージ

## エコープマーク品に新たに2商品

# 「青椒肉絲の素」「麻婆茄子の素」、直売所などで販売

全農は、4月1日にエコープマーク品の新商品「青椒肉絲の素」「麻婆茄子の素」を発売します。本商品の開発・販売を通じて、国産農畜産物の消費拡大を目指します。 【くらし支援部】

2商品は、2024年9月に発売した「回鍋肉の素」のシリーズ商品です。

中華総菜シリーズとして農産物直売所などで販売し、来店客にメニュー提案を行いながら、季節の野菜や肉との合わせ買いを促していきます。

1～2人前ずつの分包タイプとし、単身世帯や核家族でも利用しやすい仕様になりました。

商品の詳しい特徴やこだわりについては、エコープマーク品のコミュニティサイト「Aむすび」で紹介する予定です。



青椒肉絲の素



麻婆茄子の素

エコープマーク品  
コミュニティサイト  
「Aむすび」はこちら  
<https://a-musubi.net/>



## JA全農の産地直送通販サイト JAタウン ショップ紹介

### JA香川県 さぬき旬彩館

香川県で育成されたオリジナル品種のアスパラガス「さぬきのめざめ」は、極太でありながら株元までやわらかく、さわやかな甘みとシャキシャキとした食感が特徴です。

シンプルにオリーブオイルでソテーするだけで甘みが引き立ち、肉巻きや天ぷら、パスタなど、さまざまな料理でお楽しみいただけます。和洋を問わず食卓を彩る万能さも魅力です。

問い合わせも多い人気品種ながら、生産量が限られているため「幻のアスパラガス」とも称される希少な味わいです。



「さぬきのめざめ」約1kg/L  
100g(1束4本)×10束  
…4,490円(税込み)



ご注文は  
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)